

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072500343		
法人名	社会福祉法人 道海永寿会		
事業所名	グループホーム いこいの家		
所在地 (電話番号)	福岡県大川市大字海道島660-1 (電話) 0944-88-1011		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年11月4日	評価確定日	平成21年12月16日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13 人, 非常勤 3人, 常勤換算 10.1

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート 葺平屋建て造り 1階建ての
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	2 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	道海クリニック・高木病院・福岡病院・岡歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐賀県との県境に近く、筑後川沿いの長閑な田園風景の中に、グループホーム「いこいの家」はある。広い敷地内には散歩道が整備され、四季折々の彩りをみせる木々や、季節の野菜作りが行なわれる畑があり、気軽に戸外に出られる環境を有している。ホームの開設時より取り組んでいる「学習療法」の実践により、入居者一人ひとりの日々の暮らしの活性化にもつながり、認知症への積極的な取り組みが行なわれている。また法人としての充実した連携を、職員育成にも活かし、サービスの向上やスキルアップへと導いている。今年度は行政との協働により、同法人の事業所と合同で認知症サポーター養成にも取り組み、地域における福祉拠点として、牽引役も担う事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の指摘を踏まえ、更に本人の全体像に近づくためにも、センター方式を取り入れ「私の心と身体の全体的関連シート」を職員全員で書き込んでいる。介護計画が効果的に実施されるよう、ケアプランチェック表の記入にも取り組んでいる。また看取りの指針も再度見直す機会となった。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が下書きを書き、職員への確認作業を行なった。お互い質疑応答することで、評価の一つ一つの項目が意味する内容を改めて認識し、「知らない事」が表出される機会となった。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回開催している。ホームの活動報告等を行い、家族代表・地域代表より意見を頂いている。会議の機会を活用し、同法人のグループホームとともに認知症サポーター養成を行い、あらためて認知症について理解を深める機会となった。またインフルエンザ対策や災害対策、介護保険改正など、タイムリーな議題を提供している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>グループホーム内に意見箱を設置し、また苦情受付担当、苦情解決責任者・第三者委員会へという法人としてのシステムがあり、組織委員会が構成されている。日頃家族面談で得た情報は申し送りノートに書き、全職員へ周知している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域代表の公民館長を通じ、法人内のイベントへ地域の方々の参加を呼びかけている。地域のお祭りの子供太鼓や子供御輿も、敷地内で奉納していただいている。認知症サポーター養成には、家族や民生委員の参加があった。広い敷地内にはグループホームから眺められる位置に、観音様・地藏様が祀られている。次第に地域の方の信仰の対象となり、花などを持参され来訪することも増え、入居者との交流の機会ともなっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	法人理念・事業所方針として、地域密着型サービスとしての果すべき役割を具体的な内容で示し、玄関ホールに掲示している。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	法人の理念の基に、グループホームとしての基本方針をまとめ、玄関入り口に掲示している。新規採用者へ理念を説明し、日々の実践に活かせるよう指導している。定期的な研修や日々のかかわりの中でのOJTにより、理念の共有を図り、その実践に努めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	地域代表の公民館長を通じ、法人内のイベントへ地域の方々の参加を呼びかけている。地域のお祭りの子供太鼓や子供御輿も、敷地内で奉納していただいている。認知症サポーター養成には、家族や民生委員の参加があった。		広い敷地内にはグループホームから眺められる位置に、観音様・地藏様が祀られている。次第に地域の方の信仰の対象となり、花などを持参され来訪することも増え、入居者との交流の機会ともなっている。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	評価結果をグループホーム内に掲示し、自由に閲覧できるようにしている。前回評価以降、センター方式の一部活用や、日々の記録の工夫により、介護計画が効果的に実施されるよう取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回開催している。ホームの活動報告等を行い、家族代表・地域代表より意見を頂いている。会議の機会を活用し、同法人のグループホームとともに認知症サポーター養成を行い、あらためて認知症について理解を深める機会となった。またインフルエンザ対策や災害対策、介護保険改正など、タイムリーな議題を提供している。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム いこいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	大川市のグループホーム8施設合同の意見交換会に、市の担当者の出席があり、情報の共有を図っている。認知症サポーター養成においても、行政との協働関係がある。困難事例等についての相談や助言を得ている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	成年後見センターより資料の提供を受け、目に付きやすい場所に掲示している。現在、成年後見制度を活用している方がおり、その支援の過程においても知識を深める機会となっている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族面会時に近況の報告をし、面会に来れない遠方の方には月1回手紙や電話にて報告している、金銭管理は出納帳を作成し、家族からサインをしていただいている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	グループホーム内に意見箱を設置し、受付担当・苦情解決責任者・第三者委員会へという法人としてのシステムがあり、組織委員会が構成されている。日頃家族面談で得た情報は申し送りノートに書き、全職員へ周知している。		今後は、家族との率直な意見交換や、家族間の積極的な交流の場として、家族会等の発足に向けた支援・調整を検討して欲しい。
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	入居者の方々との馴染みの関係を構築し支援できるよう、異動等は最小限に抑えている。産休等、やむを得ない場合は職員間での申し送り・役割分担等を行い、安定したサービスが提供できるよう努めている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	法人の採用規定に則り、性別・年齢等で採用対象からは排除していない。資格取得へ向けての支援を積極的に行い、また研修参加の機会も確保されている。法人として、職員間の親睦を図る「親和会」があり、全体での交流が行なわれている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員に対しても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム いこいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	「人権を尊重する」という事を実践として受け止める事が出来るよう、身体拘束防止・高齢者虐待防止・観察力・接遇について等の研修を年間計画の中で実施・参加し、職員教育を行っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	法人全体で各職員の勤務年数や役職に応じた研修があり、またグループホームとしても独自の研修を企画しており、充実した職員育成の体制がある。資格取得へ向けての支援も積極的に支援している。特に新規採用者には、OJTとして管理者が付き添い指導している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	大川市グループホーム8施設合同の意見交換会を開催している。本年9月は当施設でグループホーム指導者が集まり、また大川市役所からも出席があり、意見交換会を開催した。特に困難事例等が議題となっている。11月には学習療法発表会を予定し、学習療法を導入している施設からの見学があるなど、他施設との交流する機会を持っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前に、グループホームの見学や1日体験利用をしていただき、職員や他の入居者の方々と接する機会を設けている。入居後も不安がある方には、家族の居室内での宿泊にも対応している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の方々にとって、話しやすく、聞きやすい馴染みの方言と敬語を交えてコミュニケーションを行なっている。生活の知恵として、保存食の作り方・農作業のコツ・夜鳴きする赤ちゃんの対策等、教えてもらうことも多い。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム いこいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居時に、バックグラウンドアセスメントを作成し、生活歴や職歴等、その方が歩んできた人生を把握するよう努めている。また毎日記録している個々の過ごし方の表を用い、生活パターンや意向の把握に努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	充実したアセスメントにより、生活歴や職歴・既往症などを把握し、本人・家族の意向、日々の職員の気付き等をふまえ、担当者会議にて集約している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	計画実施期間を6ヶ月として、1日の過ごし方の記録やアセスメント情報をもとに、見直しを行なっている。また体調や状況の変化がある場合には、サービス担当者会議を開催し計画の見直しを行なっている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	食事を希望される家族には、同メニューで提供したり、また個々の急な要望での外出支援等に柔軟に支援している。法人として多様な福祉事業を展開してしており、その連携をサービスの向上につなげている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人や家族の希望を尊重し、法人内の医療機関をはじめ複数の医療機関との連携を築いている。敷地内に同法人の医療機関があり、緊急時に対応が出来る体制がある。看護師も常勤となっており、正確な情報提供と適切な医療が早期に受けられる環境にある。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム いこいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期の対応方針について、入居時に本人・家族に指針を示し説明を行なっている。医療連携体制の中、家族・かかりつけ医・看護師・職員とのカンファレンスで、本人にとって最善の方法の選択が出来る環境作りをしている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	人格の尊重は法人及びグループホームの基本理念である。特に認知症・高齢者に対する研修は必ず毎年行っている。また機会あるごとに、介護現場での直接の指導を徹底している。記録等、個人情報の管理・保管にも、十分に配慮している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	特に決めた日課表等はなく、入居者一人ひとりのペースを大切に支援している。またその日をどのように過ごしていたかを時系列で記録し、生活習慣や個々のペースを把握している。職員が黒子に徹し、本人本位の支援となるよう努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	調理をしたり、つぎ分けたり、また食後はトレー拭きや洗い物を職員と共に行なっている。ホームの畑で収穫された野菜が食卓を飾る事もあり、それが話題となり賑やかな雰囲気になっていた。職員は交代で検食し、率直な意見をメニューづくりに活かしている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	敷地内の地下から湧き出る温泉を用いている。ある程度の時間帯の設定はあるが、入居者の体調や希望により、毎日の入浴にも対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム いこいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	洗濯物たたみ・調理・配膳・掃除の手伝い等にて、力を発揮する場面づくりを支援している。学習療法を取り入れられたり、国会質疑のテレビ観賞など、興味のある事や身につけていた生活能力を活かせるよう支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	毎月の行事にも、外出やドライブが頻回に盛り込まれている。同敷地内のクリニック診察の往復にも、入居者同士で車いすを押しながら、戸外の散策を楽しんでいた。広い敷地内の御観音様・御地蔵様のお参りも、外出の定番コースである。個別の外出(散歩・買い物・ドライブ等)も日常的に支援しており、戸外に出る機会が多い。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は鍵をかけないケアを実践している。見守りの徹底やチャイムの設置等、安全面に配慮しながら、入居者の方々の行動を制限することのない環境づくりに取り組んでいる。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	毎月1回、緊急通報訓練を実施し、所要時間などをその都度検証されている。また年2回、消防署立会いのもとで、昼夜を想定した訓練を行なっている。その際公民館長にも参加していただき地域協力を呼びかけている。職員にも防災についてマニュアルを配布して研修を行なった。		日頃から飲料水・パンの備蓄や、停電に備えプロパンガス等の補充に注意している。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	管理栄養士により献立が作成されている。毎日の食事・水分摂取量は観察・記録し、職員間で共有すると共に、かかりつけ医の診察時にも役立てている。摂取低下時は管理栄養士やかかりつけ医に相談・報告し、摂取状態に合わせ、食事形態を変えている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム いこいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	十分な広さを持つリビングには、古色帯びた大きな本箱が置かれている。広く動線が長いリビングであるが、いたる箇所に椅子やソファ、縁台風のベンチ等が配置され、それぞれがくつろげる場所が確保されている。行事のスナップ写真や季節の花がさりげなく飾られている。窓も広く、両側を開ければ風通りがよく、常に換気に注意されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	広く、採光がよい居室である。フローリングと畳の部屋が用意され、一人ひとりのライフスタイルに対応している。卓袱台や座布団、筆筒等、使い慣れた物が持ち込まれ、これまでの暮らしてきた我が家と同じような雰囲気づくりが行なわれている。ベッドや家具類のレイアウトは、本人や家族に任せられ、個性ある居室となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			